

中学校・高等学校における 通級による指導



宮崎大学教育学部
半田 健

1. 指導・支援のポイント（丁寧な合意形成）

○思春期の発達障害のある生徒の特徴

- ・「なぜ自分は他者と同じようにできないのか」といった自己否定感を強めやすい



○指導・支援の観点

- ①本人の気持ちに寄り添い、決して「押しつけ」にならないように配慮
- ②不得意なことばかりでなく、**得意なこと**や**できること**に気付かせそれらの積み上げにつながる支援（自己肯定感）



得意なことや不得意なこと等の多面的な**自己理解**を
踏まえながら自立に向けたスキルを獲得

※小島ら（2013）より引用

1. 指導・支援のポイント（丁寧な合意形成）

○本事例の合意形成から自己理解までのプロセス

1年
1学期

支援に入ろうとするが拒否的態度
→レポート形成（「できた」と感じられるよう支援）

2年
1学期

通級による指導の利用を提案するが拒否
→英語少人数授業でのサポート

2年
2学期

通級による指導の開始
○学習意欲の高まりと自信をもった授業参加

3年
2学期

○自分なりの学習における工夫の発見
自己理解の促進と自立に向けたスキルの獲得

1. 指導・支援のポイント（多面的な実態把握）

○思春期の発達障害のある生徒の特徴

- ・心身ともに不安定な状態であり、受験や進学といった環境の変化により実態が変化しやすい



○指導・支援の観点

- ①行動観察や対話の機会の設定に加え、教員間の情報交換・情報共有により**複数の目**で生徒の実態を把握
- ②目標設定や指導・支援の計画・実施・評価・改善といったPDCAサイクルによる**継続的な**見直し

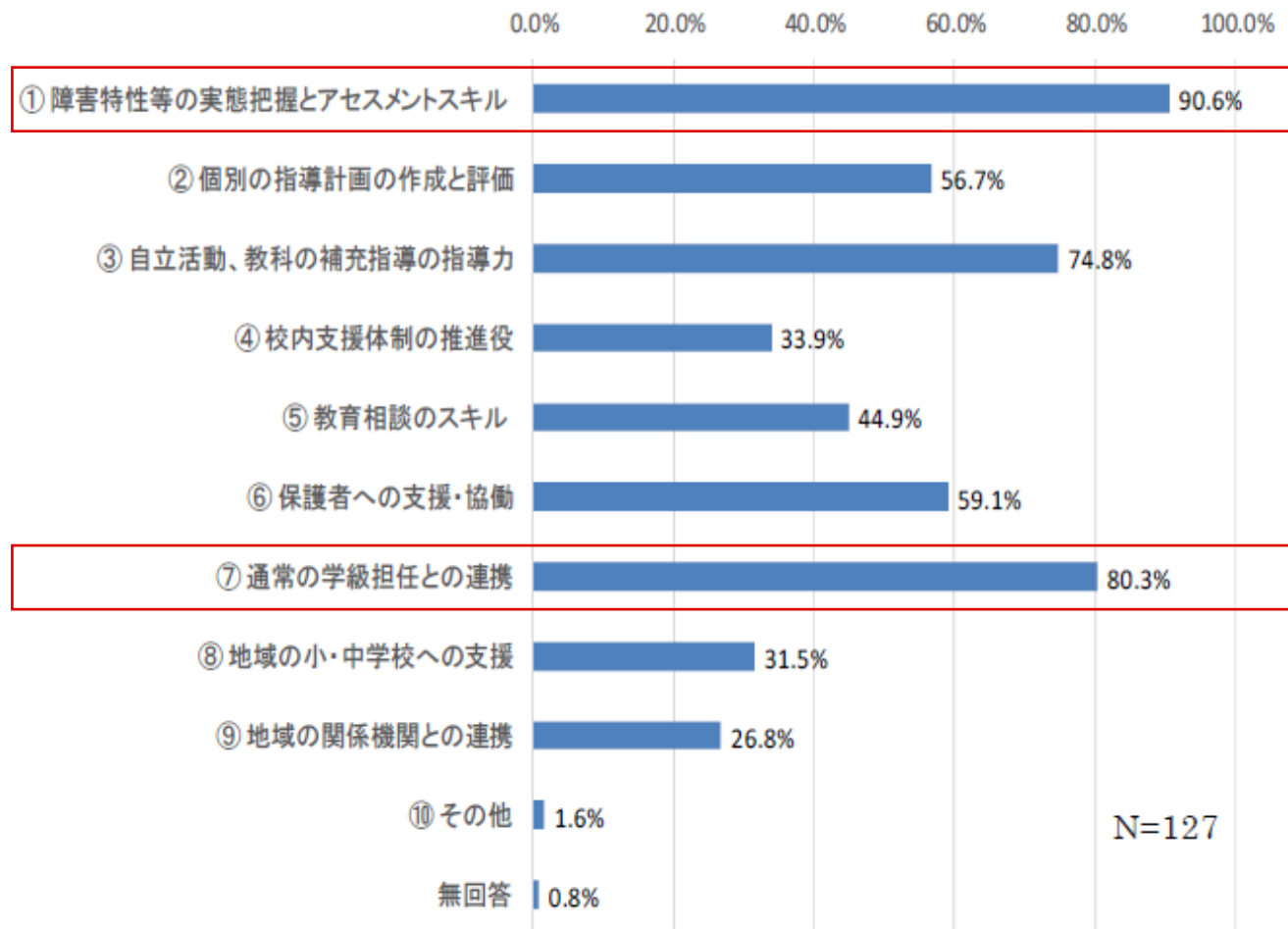


多面的な実態把握（アセスメント）によって
変化に富む生徒の実態を早期に把握

1. 指導・支援のポイント（多面的な実態把握）

○通級による指導の担当者に求める専門性

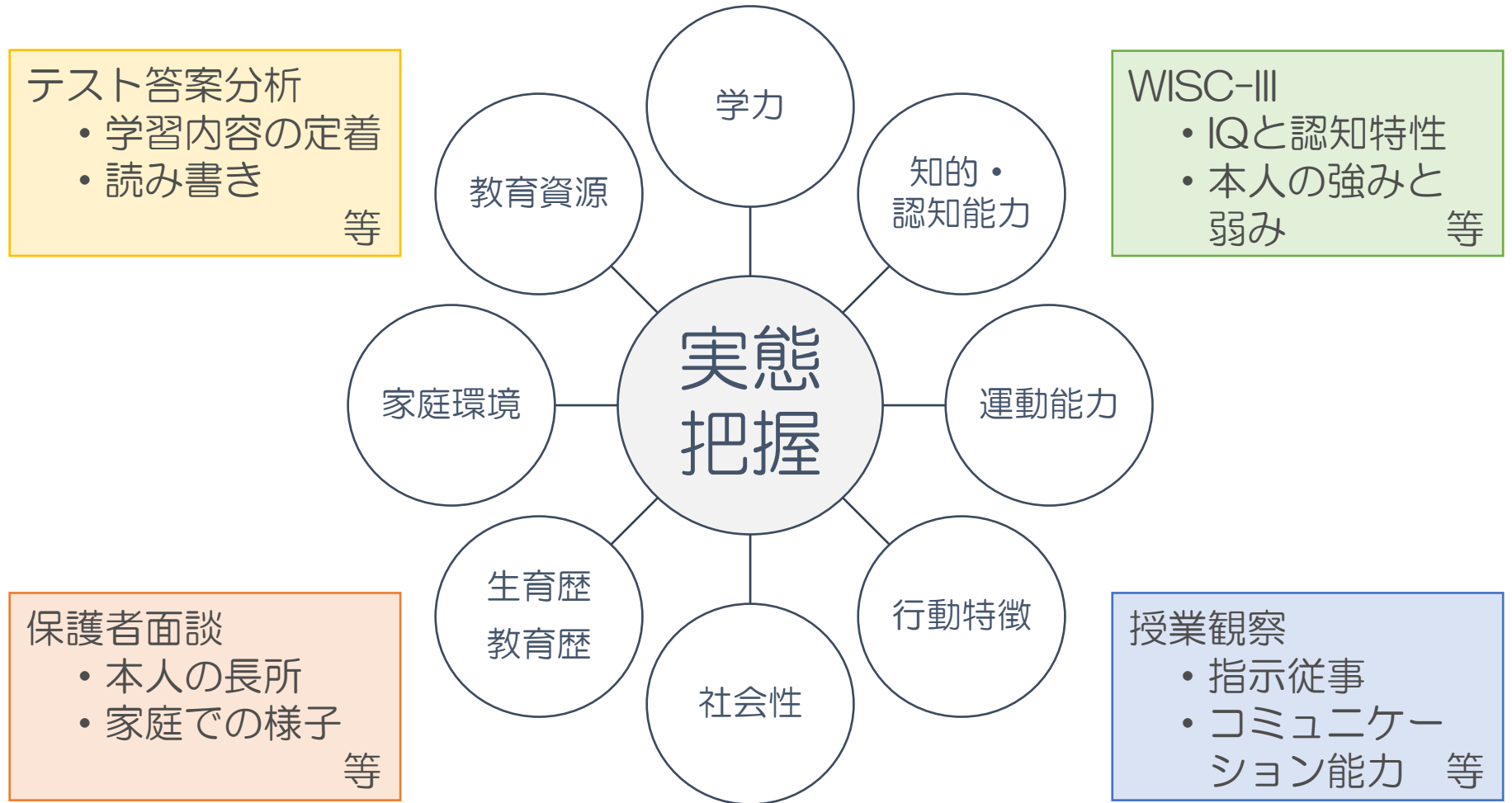
（小・中学校に通級指導教室を設置している教育委員会を対象とした調査）



※国立特別支援教育総合研究所（2018a）より引用

1. 指導・支援のポイント（多面的な実態把握）

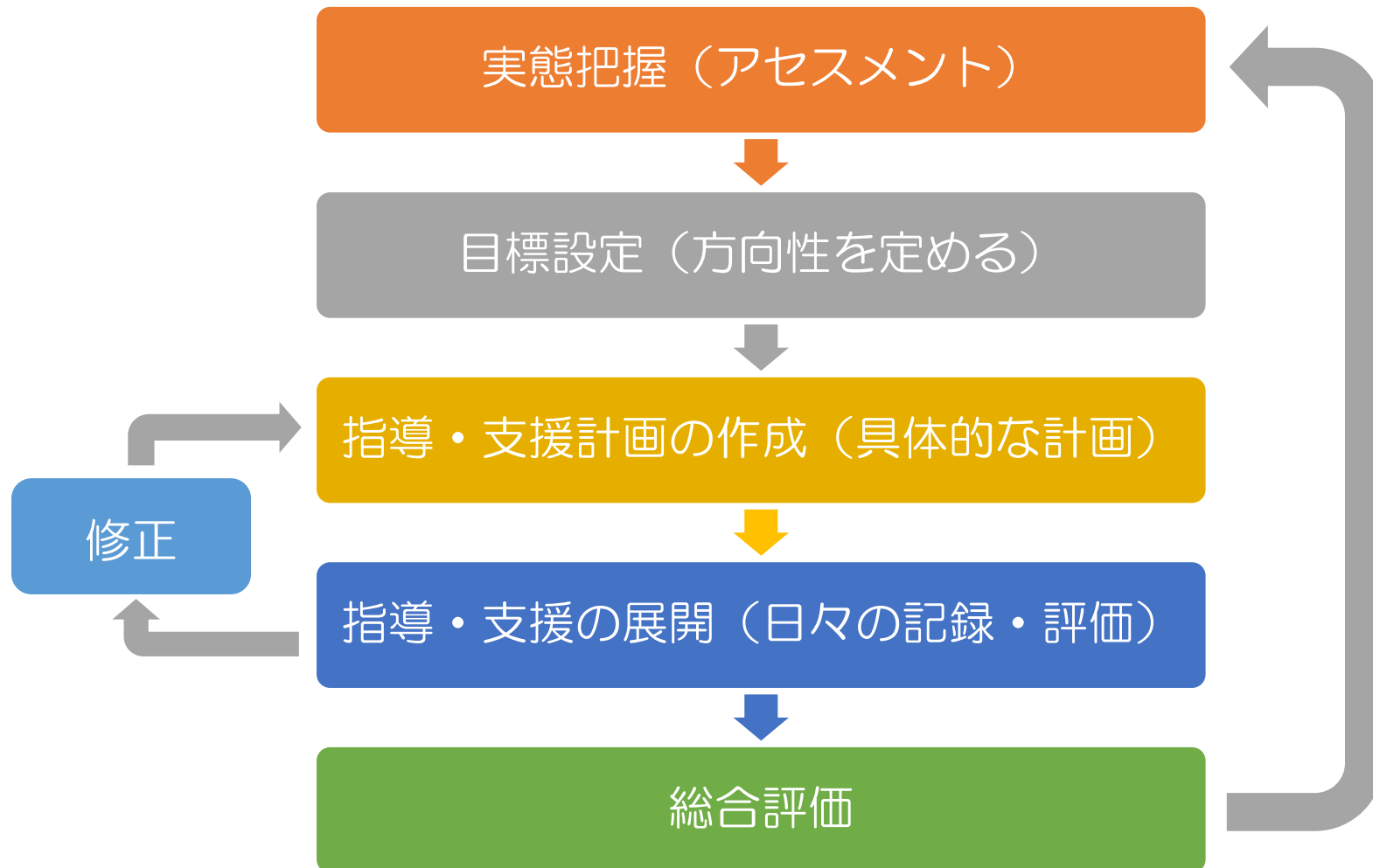
○実態把握（アセスメント）の観点



※月森（2017）による図を一部修正

1. 指導・支援のポイント（多面的な実態把握）

OPDCAサイクルによる継続的な見直し

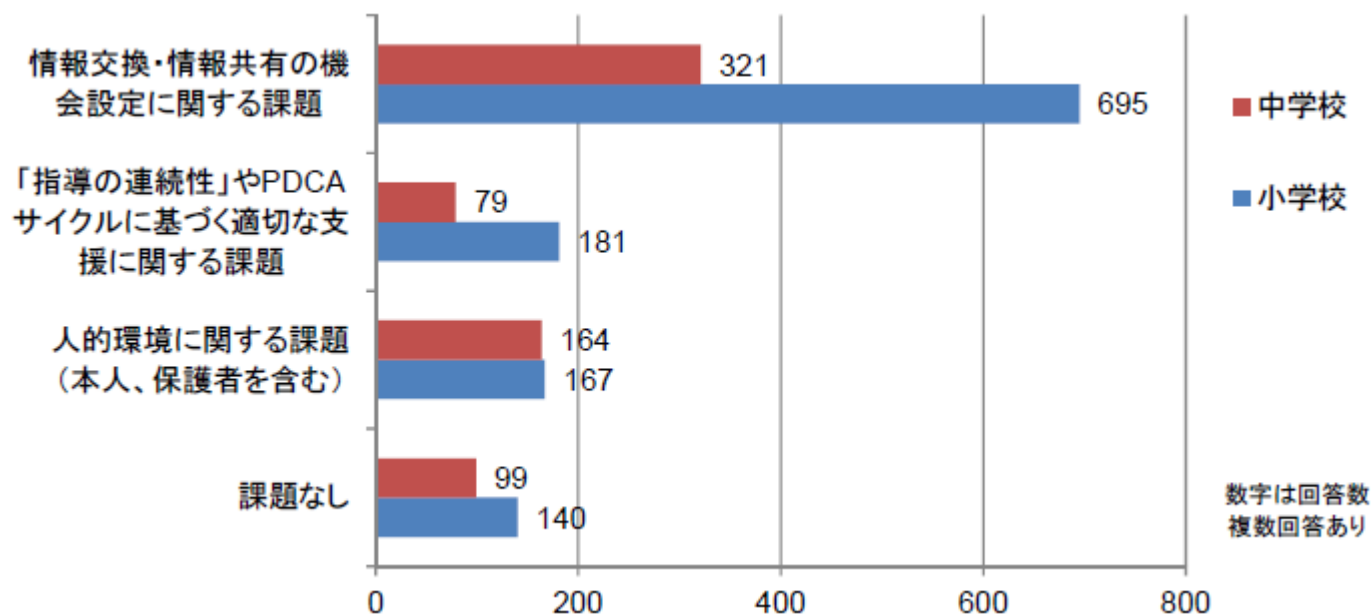


※国立特別支援教育総合研究所（2018b）の図を一部修正

1. 指導・支援のポイント（多面的な実態把握）

○通常の学級担任と通級による指導担当者の連携に関する課題
（通級による指導を受ける児童生徒が在籍する学校長を対象とした調査）

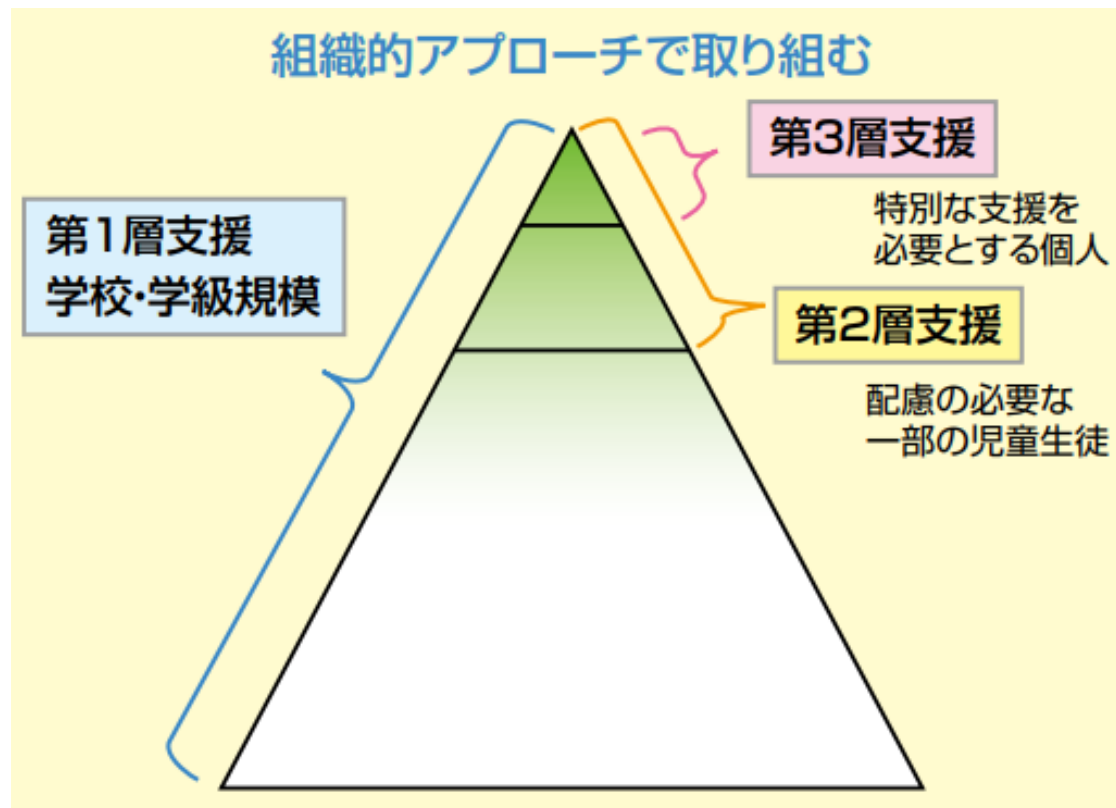
- ・校内の特別支援教育の推進を図るには**学校・教員全体**で情報交換・情報共有しながら指導・支援に取り組むための**校内体制**が重要



※国立特別支援教育総合研究所（2018a）及び国立特別支援教育総合研究所（2018b）より引用

2. 校内の特別支援教育の推進に向けた提言

- **スクールワイドPBS**（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）
 - ・ 問題を起こしている生徒だけでなく **すべての生徒**を対象とした階層的な支援システム



※徳島県教育委員会・東みよし町教育委員会（2018）より引用

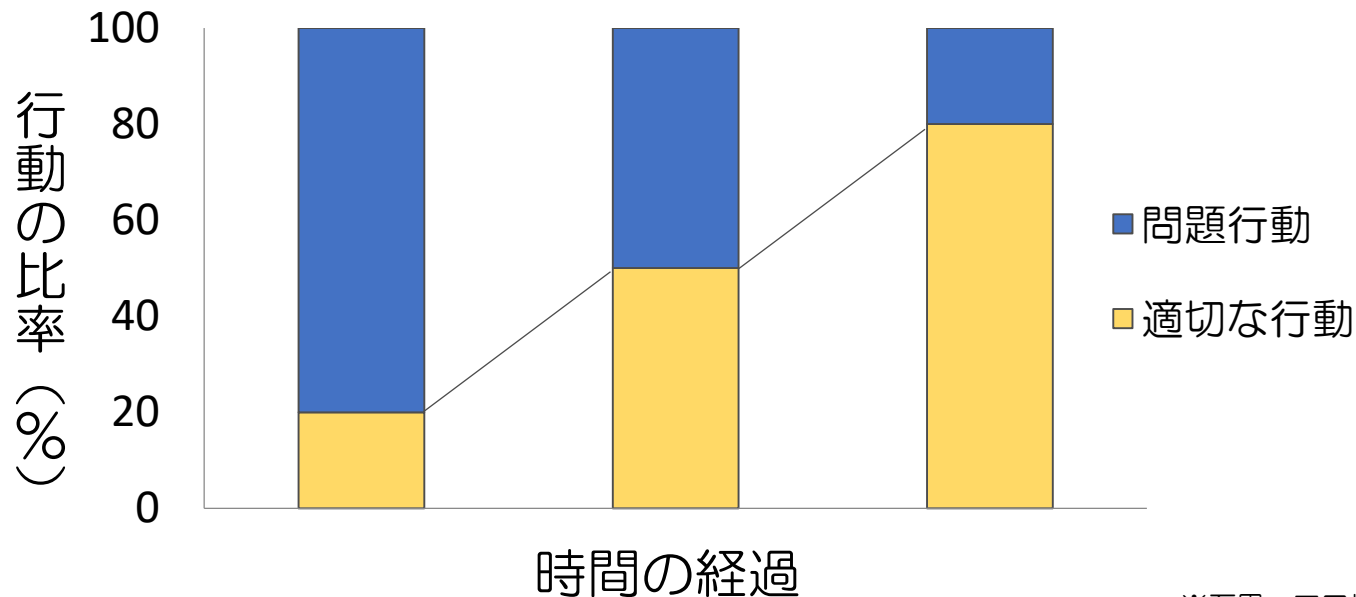
2. 校内の特別支援教育の推進に向けた提言

○**PBS** (Positive Behavior Support・ポジティブな行動支援)

・ Positive の2つの意味

①生徒の**適切な行動**（できていること）に目を向ける

②問題行動が起きてから対処するのではなく、問題行動が起きないように**予防的な側面**に目を向ける



※石黒・三田地 (2015) より引用

2. 校内の特別支援教育の推進に向けた提言

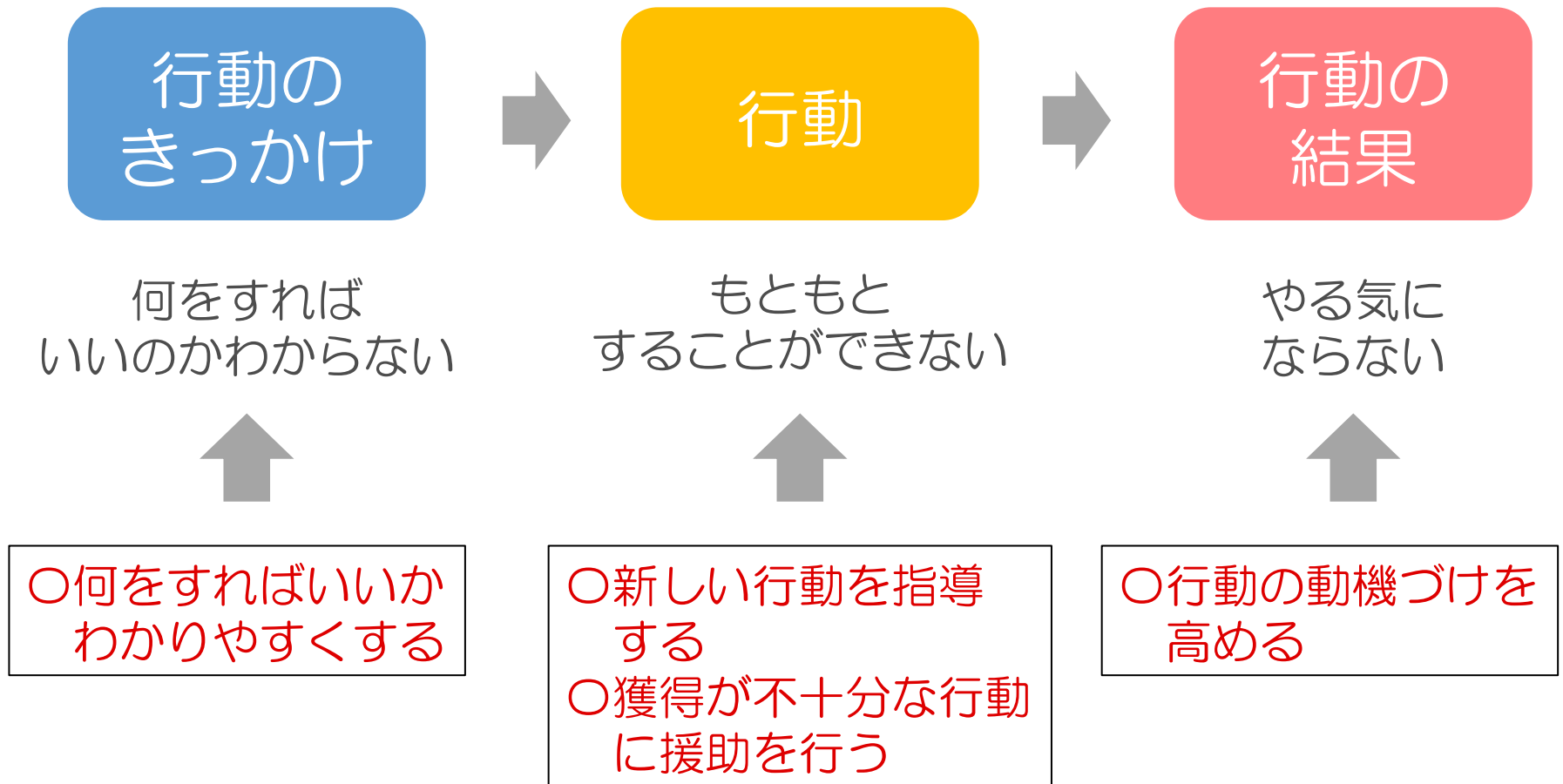
●問題行動に対する過度な注意（説教）や罰を与える対応は学校の生徒指導場面で比較的起こりやすい

- このような対応の効果は一時的であり、以下の副次的な望ましくない作用をもたらす
 - 「見つからないようにやる」ということを学ぶ
 - 罰に慣れてしまう（罰のエスカレート）
 - 抑うつや場面回避、対人回避を招く
 - 自分より弱い立場の人に罰を使うことを学ぶ

○問題行動だけに注目せず、適切な行動に注目すべき

2. 校内の特別支援教育の推進に向けた提言

- 適切な行動（してほしい行動）を引き出す方法
 - ・ 応用行動分析学（ABA）に基づく考え方



※大久保（2018）より引用

2. 校内の特別支援教育の推進に向けた提言

○スクールワイドPBSにおける各層の支援

・第1層支援

- 学校全体で生徒に期待する行動を支援

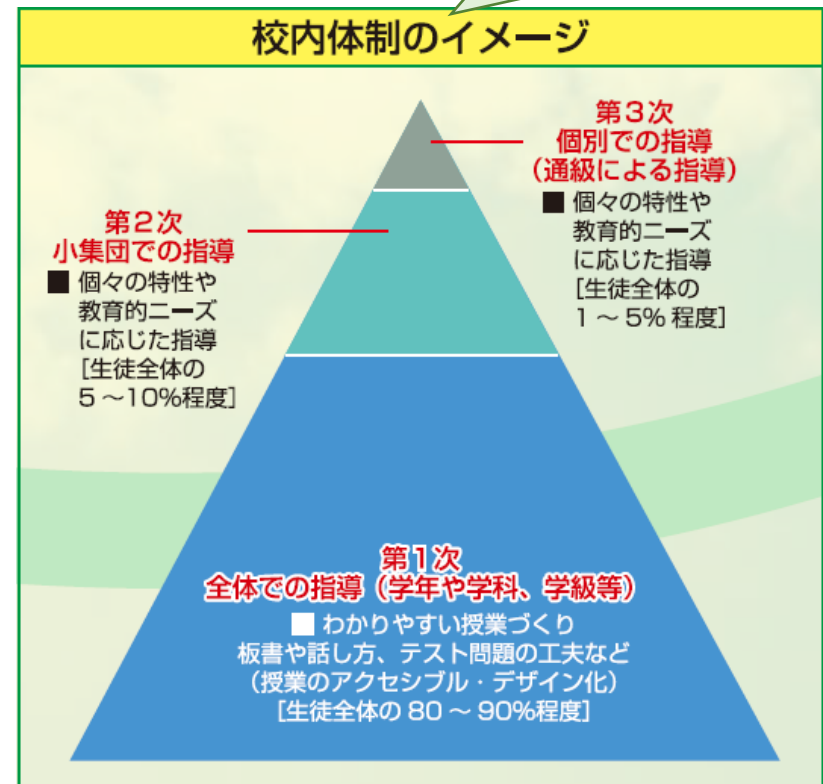
・第2層支援

- 小集団でのソーシャルスキルトレーニングや時間外での学習支援等

・第3層支援

- 通級指導教室や特別支援学級等での集中的な個別指導や他職種・専門家との連携等

宮崎県教育委員会事業
平成29年度高等学校における
「通級による指導」に関する
研究調査リーフレットより



※宮崎県教育庁特別支援教育課（2018）及びSailor et al.（2009）より引用

2. 校内の特別支援教育の推進に向けた提言

○スクールワイドPBSの利点

- 支援の必要な生徒の選定

- 第1層支援の充実を図ることで、個別性の高い第2層や第3層支援を真に必要とする生徒を絞り込む
→限られた時間や労力の中でよりの確な支援が可能

- 生徒に対する効果

- ①いじめ等の問題行動の減少
- ②主体的な活動の増加
- ③学力の向上 等

- 教員に対する効果

- ①叱責の減少
- ②教員間のチーム力の向上
- ③学校の補修費用の減少 等



※徳島県教育委員会・東みよし町教育委員会（2018）より引用

○引用文献

- 石黒康夫・三田地真実（2015）参画型マネジメントで生徒指導が変わるー「スクールワイドPBS」導入ガイド16のステップー. 図書文化.
- 小島道生・田中真理・井澤信三・田中敦士（2013）思春期・青年期の発達障害者が「自分らしく生きる」ための支援. 金子書房.
- 国立特別支援教育総合研究所（2018a）特別支援教育における教育課程に関する総合的研究ー通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当ててー. 研究成果報告書.
- 国立特別支援教育総合研究所（2018b）小学校・中学校通常の学級の先生のための手引き書ー通級による指導を通常の学級での指導に生かすー. シアース教育新社.
- 宮崎県教育庁特別支援教育課（2018）宮崎県教育委員会事業 平成29年度高等学校における「通級による指導」に関わる研究調査リーフレット.
- 日本行動分析学会（2014）「体罰」に反対する声明. http://www.j-aba.jp/data/seimei_2014.pdf（閲覧日2018年7月13日）
- 大久保賢一（2018）PBISの導入に向けた応用行動分析学の基礎的理解. PBIS研究会2018Winter定例会入門セミナー資料.
- Sailor, W., Dunlap, G., & Sugai, G., & Horner, R. (2009) Handbook of Positive Behavior Support. Springer Science + Business Media Press.
- 徳島県教育委員会・東みよし町教育委員会（2018）スクールワイドPBSースクールワイドPBSを学校に導入するためにー. http://manabinohiroba.tokushima-ec.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=199（閲覧日2018年7月13日）
- 月森久江（2017）通級指導教室と特別支援教室の指導のアイデアー小学校編. 図書文化社.